

第1回 ココロ映画会

上映作品

こえ
◆**聲の形**◆ (2016年/129分) ※字幕あり

伝えたい“こえ”がある。聞きたい“こえ”がある。

(公式ホームページより)

監督:山田尚子 脚本:吉田玲子 原作:大今良時(講談社)
※第40回 日本アカデミー賞優秀アニメーション作品賞受賞作品



日時

平成30年7月28日(土) ●第1回上映 10:30 ~ 12:45
●第2回上映 14:00 ~ 16:15
※開場は、各回上映時間 30分前

会場

福岡市市民福祉プラザ ふくふくホール

〒810-0062 福岡市中央区荒戸3丁目3番39号

定員

各回とも240名(先着順) **入場無料**

※事前申込み不要。
ただし、定員に達した場合は、入場できません。

交通アクセス

- 福岡市地下鉄(空港線)「唐人町」駅4番出口 徒歩約7分
- 西鉄バス「福大若葉高校前」バス停下車すぐ
- 「黒門」バス停下車、徒歩約5分

問い合わせ先

福岡市人権啓発センター「ココロン映画会担当」 〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2丁目5-1 あいれふ8階

TEL 092-717-1237 FAX 092-724-5162 URL <http://jinken.city.fukuoka.lg.jp/>

DVD紹介

わっかカフェへようこそ ~ココロまじわるヨリドコロ~ (DVD35分)

あなたには「心のよりどころ」がありますか?
忙しい日常に追われて、誰かと「心を交流する」ことをおろそかにしていませんか?
町の路地にたたずむこの小さなカフェには、いろんな人が訪れます。

① 三色団子の向こう側(インターネットによる人権侵害)

- 初めて自分のスマートフォンを持ち、うれしくて仕方がない。「学校でルールは習ったから大丈夫」とは言うものの事件が起こる…
- 「インターネットの怖さ」を考えることを通して、コミュニケーションの大切さに気づかされます。

② 世代をつなぐ(高齢者の人権)

- 窓際の席で和む、高齢の男性。そこへ叱責する一人の男性。「勝手に外に出るなって言っただろ!面倒見るのは俺なんだぞ!」帰っていく二人。
- 高齢者の方と、どう向き合っていくべきかを考えさせる作品になっています。

③ コンペイトウの来た道(外国人の人権)

- すり傷の手当をした外国人の少年のことから、話題が広がる商店街の三人。「私は、日本人とだけ付き合っていれば十分」三人の中で、外国人に対してかたくなな一人がいる。
- 外国の方とまず知り合いになってみる。違いを認め合い、時には議論を戦わせ、コミュニケーションを深めていくことの大切さに気づかされます。



企画:東京都教育委員会
制作:東映株式会社教育像部

ココロンセンターだより No.72 発行:平成30年6月 福岡市人権啓発センター

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2丁目5番1号 健康づくりサポートセンター(あいれふ)8階 TEL092(717)1237 FAX092(724)5162
E-mail:jinkenkeihatsu.CAB@city.fukuoka.lg.jp ホームページ <http://jinken.city.fukuoka.lg.jp/>
TEL092(717)1247(人権啓発相談室では人権問題に関する相談及び、研修会や学習内容に関する相談を受け付けています)



法務省委託事業

平成30年6月(夏季号) No.72 福岡市人権啓発センター

CONTENTS「主な内容」

- ココロンキャンパス 1P
- ココロンセミナー紹介 2P
- 人権啓発地域推進組織の取組・人権啓発推進指導員のコーナー ... 3P
- ココロン映画会・DVD紹介 4P



ココロンキャンパスの開催

福岡市人権啓発センター&福岡大学人権教育公開講座
コーディネーター 福岡大学教授 野口 徹氏

テーマ

**東京パラリンピックを目指して
~障がい者スポーツと共生社会~** ※要約筆記あり

日時

平成30年6月27日(水) 16:20~17:50

講師

副島 正純(そえじま まさずみ)氏

パラリンピックアスリート(銅メダリスト)
東京マラソン車いすレースディレクター



プロフィール

【所属先】一般社団法人ウィルチェアアスリートクラブ ソシオ SOEJIMA
マラソン自己最速記録:1時間18分50秒(2011ボストンマラソン)
パラリンピック4大会連続出場
(2004アテネ、2008北京、2012ロンドン、2016リオ)
日本身体障害者陸上競技連盟 強化指定B選手

1970年生まれ。長崎県諫早市在住。

23歳の時、家業である鉄工所の作業中、鉄板落下の事故により脊髄を損傷し車いすの生活となる。入院中に障がい者スポーツと出会い、スポーツの楽しさに魅了され、車いすマラソンを開始。2000年から、世界トップレベルを目指し、本格的に競技活動を開始。

2005年からは国際的なマラソン大会に出場。ボストンマラソン、ニューヨークシティマラソン、ベルリンマラソン、東京マラソンの優勝をはじめ、2016年までに通算20回の優勝を成し遂げる。

2014年4月、自身も世界トップアスリートとして活動しながら、一般社団法人ソシオSOEJIMAを立ち上げ、

車いすの子ども達が世界レベルの競技者を目指せるような環境の提供と指導を行い、子ども達の車いすアスリートへのチャレンジをサポートしている。また、2015年6月には東京マラソン車いすレースディレクターに就任。国内外で活躍する選手が競い合う世界最高レベルの車いすレースを目指し、車いすレースのレベルアップや、車いすレースの魅力を伝えている。

現在も日本車いすマラソン界のトップアスリートとして、2020年東京パラリンピック出場を目指し、活動を続けている。

定員

280名(当日先着順) **入場無料** **会場** **福岡大学 A棟AB02講義室**

※一般市民の参加可。事前申し込み不要。
直接会場にお越しください。
ただし、定員に達した場合は、入場できません。

※大学内に駐車することはできません。
公共の交通機関でお越しください。

主催

福岡市人権啓発センター(法務省委託事業)

問い合わせ先

福岡市人権啓発センター「ココロンキャンパス担当」

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2丁目5-1 あいれふ8階

TEL 092-717-1237 FAX 092-724-5162 URL <http://jinken.city.fukuoka.lg.jp/>

ココロセミナー紹介

考えてみませんか? あなたの人権 わたしの人権

ココロセンターでは、さまざまな人権の分野について経験豊富な方々を講師に迎え、人権問題を身近なものとしてとらえていただくための講座を、今年も開催します。

この講座を機会に、あなたや身の回りにあるさまざまな「人権」について、学んでみませんか?

スケジュール

**第1回 7/12(木) 『子どもに関する人権問題』^{はく}育もう、子どもと保護者の人権
～ガミガミ・イライラはSOSのサイン～**
10:30～11:30

NPO法人にじいろCAP 代表 ^{しげなが}重永 ^{ゆき}侑紀さん
会場：福岡市立中央児童会館「あいくる」7階集会室 定員：50名（託児あり先着10名）

第2回 7/21(土) 『ハンセン病』わたしたち市民のハンセン病問題～高校生からのメッセージ～
14:00～16:00

^{えいしん}盈進中学高等学校 ヒューマンライツ部 生徒 ^{ごとう}後藤 ^{みずき}泉稀さん
^{のぶ}教頭 ^{かずとし}延 ^{だいすけ}和聰さん
会場：福岡市健康づくりサポートセンター「あいろふ」10階講堂 定員：120名

**第3回 9/8(土) 『障がい者に関する人権問題』誰もが安心して暮らせる社会を目指して
～医療的ケアが必要な子どもたち～**
14:00～16:00

西日本新聞社 記者 ^{みやけ}三宅 ^{だいすけ}大介さん
会場：福岡市人権啓発センター研修室（あいろふ8階） 定員：70名

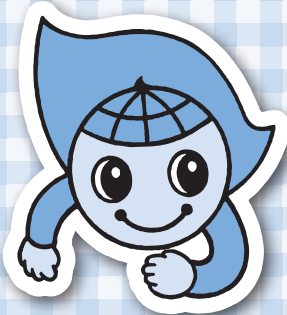
応募方法

案内チラシ裏面FAX申込書（各区役所、市民センター、公民館などにあります）・ハガキ・ホームページの申込フォームより受付。受講決定者には通知します。

●応募要項

- ※ ①受講希望回、②住所、③氏名、④電話番号、⑤FAX番号又はメールアドレスを記載すること。
- ※ 第1回講座の託児を希望される方は託児希望に○を付け、⑥お子様の名前、⑦年齢を記入してください。
【託児】対象：生後6カ月から就学前まで（先着10名）
- ※ ご記入いただいた個人情報については、講座の連絡のみに利用させていただきます。

受付開始日 平成30年6月1日(金)～
(先着順、定員となり次第締め切り)



昨年度開かれたココロセミナー

応募及び問合せ先

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2丁目5-1健康づくりサポートセンター（あいろふ）8階
福岡市人権啓発センター「ココロセミナー担当」
TEL 092(717)1237 FAX 092(724)5162
URL <http://jinken.city.fukuoka.lg.jp/>

人権啓発地域推進組織の取組

人権のまちづくり 子どもの一句から

宮竹校区人権尊重推進協議会

「ふみだそう いじめをとめる 第一歩」「ふりまごう ふわふわ言葉で いっぱいに」。宮竹小学校（福岡市南区）の外壁フェンスに取り付けた横断幕です。宮竹中学校にもこんな標語が掲げられています。「認め合い 笑顔のたえない 中学校」「いじめの根 みんなの声で 枯らせよう」

この横断幕は、宮竹校区人権尊重推進協議会（人尊協）が取り組む「人権標語活動」の一環です。毎年、地元の宮竹小6年生と宮竹中3年生の児童生徒から投稿してもらい、300句以上の中から人尊協啓発部会委員が各4句を選考し、横断幕に使用したり、広報紙「こころ」に掲載したりします。

学校の協力を得て15年以上続いています。子どもたち自身が考える「人権」が見える形で地域に還元されることで、保護者も巻き込んだ人権意識の醸成に一役買っていると確信します。ボランティア活動に参加する子どもたちが多いのも、この標語活動と無縁ではないと思います。卒業式では記念品として「宮竹校区人権尊重推進協議会」の文字入りボールペンを全員に配ります。使いながら「人権」を意識してもらえたらうれしいですね。

宮竹人尊協は平成4年、「思いやりと支えあいの地域づくりを目指す」を活動目標に組織化され、25年が過ぎました。そして、この10年間は数年ごとに、「自分の身の回りの人権を振り返ってみませんか」「地域に人権の輪を広げよう」「ひとりひとりが人権のまちづくりを」と、テーマに連続性を持たせて講演会や人権学習会などの活動を組み立てました。

昨年未の講演会は、津軽三味線奏者の虎高さん^{とらたか}を招いて「人権コンサート」を開きました。父親が大衆演劇の座長だったために友達ができる間もなく転校を繰り返したこと、活動の拠点を置く福島で東日本大震災に遭ったことなど、その体験談は迫力ある津軽三味線の演奏とともに聴く人の心を揺さぶりました。虎高さんの講話の中に、自分なりの人権キーワードを見つけたことでしょうか。

最後に、宮竹小6年生がつくった句を紹介します。「あたりまえに 言ってることが いじめかも」
われわれ大人もかみしめたい標語です。

（会長の山根利基さん、公民館長の栗崎博文さん、事務局長の荒木恭子さん、会計の木本千恵子さんに話を伺いました。）



左から、荒木さん、栗崎さん、山根さん、木本さん

人権啓発推進指導員のコーナー

『徘徊』と呼ばないで

新聞を読んで思ったこと。
認知症の人が一人で外出中に道に迷ったりすることを『徘徊』と呼んできた。

徘徊とは、辞書によると「目的もなく、うろうろと歩き回ること」と説明されている。（大辞林）

認知症の人によれば、「私たちは、自分なりの目的があって外に出かける」などと、『徘徊』と呼ばないでほしいとの声があがり、自治体などで『徘徊』を使わない動きが広がっているそうだ。

2025年には、高齢者の5人に1人にあたる約700万人が認知症になるといわれ、誰もが認知症の当事者になる可能性がある。

以前、「認知症」は「痴呆」と呼ばれ、何もわからなくなった人という偏見が、私の頭の中にも刷り込まれていたように思う。当時、「痴呆」という言葉は、自分には関係ない事と捉えており、真剣に将来を考えていない自分があったように振り返る。

厚生労働省は侮蔑的な表現であるなどの理由で、「痴呆」から「認知症」へ2004年に改めた。高齢者の対象に届く年齢となり、無関心であった自分を反省している。これから、『徘徊』が認知症の方への偏見のすり込みにならないよう、当事者の気持ちに思いを寄せながら、適切な言葉を考えていきたい。

（白石）

「麦」から「桃」の時代?

この4月は新社会人の人権研修をする機会が幾度があった。緊張気味の初々しかった面々は今、生き生きと仕事に向き合っているだろうか。

つい、「麦」に例えられた、自分の新人時代と重ねてしまう。「踏まれるほどに生長するたい」。上司のご指導、は容赦なかった。で、自信を無くし、毎日が不安で、朝がつかなくて（飲みすぎ?）一。今なら、「軽いうつ病」「適応障害」の診断が下ったかもしれない。「五月病」とも。

あれから35年以上、指導が熱過ぎるとパワハラグレーゾーンに入ってしまうのが今のご時世。「本人のためを思って…」は、立場を代えると「いじめられている」になりかねず、上司に悪意がなくても問題化するケースも少なくない。気合と根性論の指導は危ういし、もう古い。

「麦」の時代に飛び交った「アホ」「オマエ」は職場から消えた。新人や部下をつぶせば、いずれは会社の損失になる。今はさしずめ「桃」の時代か。上司の方々、時には、実を傷つけないよう薄い皮を丁寧に剥ぐような心遣いも必要です。まずはお互いの信頼関係づくりを。

（蔵本）